

平成三十年度入学試験問題
(前期日程)

国語

教育学部 学校教育教員養成課程 小学校教育コース 教科教育専攻

中学校教育コース 教科教育専攻 国語教育専修

注意事項

- 一、解答時間は、一〇〇分である。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。
- 三、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 四、解答は縦書き、鉛筆(シャープペンシルを含む)書きにすること。

※非公開

一

次の文章は、ポーランドにあるアウシュヴィッツ強制収容所を訪問した旅について綴った小川洋子の文章の一部である。よく読んで、以下の各問に答えなさい。(三〇点)

※非公開

※非公開

※非公開

(出題の都合上、出典は省略する。一部改変)

問一 波線部 a) e の漢字について読み方を書きなさい。

- a 無造作 b 莫大 c 身繕(い) d 慰(め) e 覆(い)

問二

A

B

 に当てはまる書名を、それぞれ次の中から選んで解答欄に記入しなさい。

- ゲド戦記 シンドラーのリスト 俘虜記 夜と霧 奪われた物語 アンネの日記 悪の凡庸

問三 傍線部①「あつてはならないのだと思う」について、筆者は何か「あつてはならない」と考えているか、説明しなさい。

問四 傍線部②「象徴的な傷」とはどのように象徴的なのか、説明しなさい。

問五 傍線部③「見事な規則化」の本質とは何かを踏まえ、「見事な」に付けられた符号の意味について説明しなさい。

問六 アウシュヴィッツ強制収容所の展示品を見学する際、筆者はどのような想像力を働かせているか。筆者の想像の跡を辿りながら説明しなさい。
また、こうした想像力が持つ意味について、あなたの考えを述べなさい。

※非公開

二

次の文章は、安藤宏『私』をつくる 近代小説の試み』の一部分である。よく読んで、以下の各問に答えなさい。(三〇点)

※非公開

※非公開

(安藤宏、『私』をつくる 近代小説の試み、二〇一五年、岩波書店、二六―三一ページ、抜粋・一部改変)

問一 波線部 a～e のことばを漢字で書きなさい。

- a ロコツ b ソウサ c コウサク d ヒョウシキ e ヒョウショウ

問二 傍線部①「なまじ」の意味としてふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア そのようにすること自体は望ましいのだが、状況に対して判断や対応を誤ることで、かえって好ましくない結果を招くという意味。
イ できそうもないのに無理矢理実行したことが、後になって状況の変化や対応の巧みさで結果的にうまくいくという意味。
ウ そうすることが期待されているのに、周囲の反発や助言を気にしすぎて、結局思いとは別の良くない結果を生んでしまうという意味。
エ 周囲の心配を顧みずあえて実行することで、誰も想像しなかったような画期的な成果あるいは効果が生まれるという意味。

問三 二重傍線部 A「夏目漱石」と B「谷崎潤一郎」が著した作品名を、それぞれ一つずつ書きなさい。ただし、夏目漱石は『三四郎』を除く。

問四 傍線部③「この二つの視点を交互に織り交ぜ、立体的に構成してみせている点に作者の創意と工夫があるわけである」とあるが、「作者の創意と工夫」とはどういうことか、具体的に説明しなさい。

問五 傍線部④「或る微妙な、いわば危険な関係」とあるが、それはどういうことか。「危険な関係」の意味がよくわかるように説明しなさい。

問六 傍線部②「本題」とあるが、筆者が中心的に論じている内容を簡潔にまとめなさい。

※非公開

三

次の古文は、近世琉球の文人である平敷屋朝敏が著した物語『萬歳』の一節である。共に名家の子女である白太郎金と真鍋樽金は恋に落ちるが、真鍋樽金には既に親が決めた許嫁がいた。思いあまつた白太郎金は海に身を投げる覚悟を決め、同じ夜、真鍋樽金は夢にその姿を見て不安になり、夜の海に向かう。それからの展開を記した本文と注をよく読んで、以下の各問に答えなさい。(二四点)

(仲原裕、『翻刻と訳注 平敷屋朝敏作品集』、一九九四年、私家版、三〇六―三一五ページ、抜粋・一部改変)

注 1 犬——白太郎金の飼犬。

2 三瀬川——三途の川ともいう。冥途に行く途中に流れているという川。

3 業——宿運。

問一 波線部 a、d のうち、主語が同じ組合せとして正しいものをア、エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア a c と b d イ a d と b c ウ a c d と b エ a と b c d

問二 傍線部①「潮ぞ干なまし」を品詞分解すると幾つの単語に分けられるか。漢数字で答えなさい。

問三 二重傍線部の助動詞 A「る」・ B「じ」・ C「せ」の文法的意味として適切なものを、ア、カの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 打消推量 イ 過去推量 ウ 自発 エ 尊敬 オ 存続 カ 断定

問四 傍線部②・④を現代語訳しなさい。

問五 傍線部③は「どうかお見せにならないでくださいな」と現代語訳できる文である。空欄に入る適切な語を答えなさい。

問六 本文の内容や表現に対する説明として正しいものをア、エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 白太郎金が語っていた言葉を真鍋樽金が少しずつ思い出すことにより、投身に至ったいきさつが次第に明らかになっている。
イ 白太郎金の飼犬が、飼主が投身した現場に真鍋樽金を連れて行くなど、物語の展開において大きな役割を果たしている。
ウ 真鍋樽金の悲しみや後悔、決意といったさまざまな感情が直接話法で表現されることにより、読者に生き生きと伝わってくる。
エ 恋人の死を嘆く真鍋樽金の前に不思議な老翁が現れて、全ては彼女の夢であったことを解き明かす幻想的な物語となっている。

問七 本文に記されている内容について、あらすじを八〇字以内でまとめなさい。

※非公開

四

次の漢文は、江戸時代中期の儒学者である江村北海が、玉井という地に建てた別荘の風情を詠んだ藤原為時の漢詩について解説したものである。本文と注をよく読んで、以下の各問に答えなさい。なお、設問の都合により一部、訓点を省略したところがある。（一六点）

（大谷雅夫校注、新日本古典文学大系65『日本詩史』、一九九一年、岩波書店、原文四七五ページ、抜粋・一部改変）

- 注
- | | | | |
|---|-----------------------------------|---|---|
| 1 | 五品 <small>ごほん</small> ——為時の位階のこと。 | 2 | 松楹半按碧岩稜 <small>しやうやう</small> ——松の柱は碧岩の角を押さえるように立てた。 |
| 3 | 潤月——河川の上に輝く月の光。 | 4 | 声格——格調。 |
| 6 | 合作——合格に価する作品。 | 7 | 源語——『源氏物語』。 |
| | | 5 | 首尾 <small>いん</small> 勻称——最初から最後までうまく照応している。 |

問一 空欄 A に入る適切な語を、ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 五絶 イ 五律 ウ 七絶 エ 七律

問二 傍線部①「応褰幔」を全て平仮名で書き下しなさい。

問三 傍線部②「潤月臨窓欲代燈」を現代語訳しなさい。

問四 空欄 1・2 に入る漢字の組合せとして適切なものを、ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 会・去 イ 雪・氷 ウ 桜・散 エ 鳥・眠

問五 傍線部③「池辺何物相尋到」とあるが、池辺を尋ねた（訪ねた）「物」を、詩の中から二つ抜き出しなさい。

問六 傍線部④は「声格に乏しと雖も、首尾匀称、合作と称するに足る。」と読む。これに従って解答欄の白文に訓点をほどこしなさい。

問七 空欄 B に入る人名を考えて、漢字で答えなさい。

問一	a むぞうさ	b ばくだい	c みづくろ (い)	d なぐさ (め)	e おお (い)
問二	A アンネの日記	B 夜と霧			
問三	差別による不条理な大量虐殺（の跡を見ること）。				
問四	ナチスによるユダヤ人の大量虐殺は、人を各々固有の個性や人生を生きるかけがえのない存在として見なさず、モノと同様の無機的な存在として見なすがゆえに可能となった。ユダヤ人男性の身体に刻まれた数字は、こうしたナチスのありようの象徴である。身体に刻まれ、容易に消し去ることのできない数字は、モノとして扱われ、やがて殺される運命にあった人の傷を象徴的に表している。				
問五	ナチスは、人を多様な個性を持つかけがえのない命と見なさず、やがて虐殺すべき対象として厳密に組織の規律に従い、“見事な”までに規則化し、管理した。多様な命の姿ではなく、厳密で形式的な管理を最優先させるナチスの非人道的な本質を浮き彫りにするために “ ” を用い、その本質への批評をこめている。				
問六	筆者は、個を押し殺すために異様なまでに規則正しく写された写真から、写された人の年頃や髪質、体格などをできるだけ具体的にまざまざと想像し、そこからそれぞれの個性や生きてきた人生、さらには思い・メッセージまでも立ち上げようと想像力を働かせている。そこから、「思わず撫でてあげたくなる。」など、一人の人間として、写真に写された人を愛おしむ思いが湧き起こる様子が見える。他者の多様な生のありようを、それぞれにかけがえのないものとして平等に愛おしみ、まざまざと立ち上げらせる想像力こそが、不条理な虐殺を二度と起こさせないために必須である。				

問一	a 露骨	b 操作	c 交錯	d 標識	e 表象
問二	ア				
問三	夏目漱石 『こころ』『坊ちゃん』『草枕』など		谷崎潤一郎 『細雪』『春琴抄』『陰翳礼讃』など		
問四	三四郎の視点を離れ概括的に説明する三人称的な視点である「うた」と、彼に寄り添い東京がどのように見えるのかという一人称的な視点である言い切りの表現を合わせることで、東京の町を三四郎がトータルに見ていることが読者にわかるようにしている。				
問五	他者の心理を描写するには、文末表現を「うた」とすればよいのだが、他者の心理を話し手が断定するのは不自然であるので、話し手の判断として「のである」を付け加えたい。しかし、それは他者の心理を話し手が主観的に判断しているかのように見えるということ。				
問六	近代日本における言文一致の小説づくりは、三人称的な視点と一人称的な視点をいかに組み合わせるかがポイントであった。そのため、小説世界の背後でそれを読み手に伝えている叙述主体である「私」を隠したり巧妙に打ち出したたりする必要が生じた。				

問一	ア	問二 五	問三 A オ B ア C エ	問四 ② どうして早く告げてくださらなかったのか	問五 な	問六 ウ	問七 真鍋樽金は白太郎金の遺体を発見し、悲しみと後悔にうちひしがれて自らも投身しようとしたが、神のような老翁が突然現れて彼女を引き止め、白太郎金を生き返らせた。
				④ あの子も、まだ宿運が尽きていないので、生きるはずだ			

四

問一	工					
問二	まさにまくをかかぐべし					
問三	河川の上に輝く月の光は窓に向き合って、ともし火の代わりになろうとしている					
問四	イ					
問五	雁	鶴				
問六	モ シト ニ 雖 乏 声 格、首 尾 勻 称、足 称 合 作。 ル スルニ ト シ ニ ー シ ニ ー					
問七	紫式部					